



情報の行き交う 部会をめざす

4.7 青年部会が通常総会



新役員の皆さん



議事と採決する部会員



フォークリフト講習会



JGAP導入プロジェクト



県青協発表大会最優秀賞の鈴木義弘氏(左)

青年部会はJAあいち経済連東三河センターで第12回通常総会を開いた。部会員ら約80名が出席し、平成20年度計画として支部間の団結強化と農産物の安全・安心に向けた活動に取り組みことを掲げた。

昨年度の鈴木義弘部会長は「今後も若い力で引継ぎ張り、自分自身が少しでも大きく成長できるように励んでほしい」とあいさつした。

現状の部会活動は各支部ごとの取り組みが中心。全体としての連携力を強めるため、今年度は部会員相互の交流に重点をおくとともに、支部合同の研修や親睦をはじめ、地域貢



あいさつする山本章雄部会長



DVDの収録



とよはし百菜鍋

献活動などに取り組んでいく。

今年度の山本章雄部会長は「部会活動を充実させるために、まずは部会員同士を知ることから始め、情報の行き交う部会をめざしたい」と抱負を述べた。

新役員は次のとおり(敬称略)

- 部会長 山本章雄
- 副部会長 加藤秀司
- 会計 大沢知久
- 県青協正委員 内藤貴教
- 県青協副委員 渡辺靖典
- 監査委員 久保忠司



森林保全活動



カクテル・スイーツづくり



イチゴ狩り

Sweet Sweets Strawberry

4.8

柿部会総会



柿部会は第六事業所で第8回通常総会を開いた。部会員ら約60名が出席し、平成20年度活動計画として所得向上と産地強化、魅力ある部会をめざすことを掲げた。

印貢大起部会長は「有利販売していくためには、計画出荷が重要。市場との信頼関係を強くしていきたい」とあいさつした。

今年度は長期ビジョンの産地計画策定及び次郎柿100周年記念事業（平成26年度）に向けた計画を検討していく。

4.7

イチジク部会
総会

イチジク部会は第六事業所で第7回通常総会を開いた。部会員、県、JA職員ら35名が出席し、平成20年度は産地としてのレベルアップをめざすことを承認した。

加藤典久部会長は「部会員数が増えてきている。農業をやりたいという人がいれば、ぜひイチジク栽培をすすめて新しい仲間を増やしていこう」とあいさつした。

今年度は部会の発展をめざすため、消費宣伝会の実施のほか、新規栽培者を対象とした説明会を開催していく。



4.28

肉牛部会
全体会

肉牛部会は本店で第1回全体会を開いた。部会員ら約30名が出席し、平成20年度の活動計画について協議した。

下沢吉孝部会長は「今が一番大変な時期だが、みんなで協力して乗り切っていこう」、白井良始組合長は「世界の出来事が我々の個々の経営にも影響するが、関係団体が連携し一体となって頑張っていきたい」とあいさつした。

今年度年間活動として枝肉共進会、研修会、畜霊祭等を行う。

会議後、JA東日本くみあい飼料東海支社営業部営業課の村松氏が「枝肉からみた飼養管理」と題して講演が行われた。

4.8

黒潮牛研究会
全体会

黒潮牛研究会は本店で第1回全体会を開いた。会員、経済連担当者ら18名が出席し、平成20年度の活動計画について協議した。

今年度は店頭販売のほか、JA催事への出店、現地研修を行う。

会議では取引先の一つである生活協同組合コープぎふの池田弘伸担当マネジャーと意見交換を行った。池田担当マネジャーは「生産者と消費者および流通関係者が交流することによって思い入れをつくってもらうことが重要。黒潮牛のブランド定着に向け、連携を強化していこう」と話した。



4.20
お茶摘み
農作業体験



豊橋市茶業協議会は、市内の茶園で農作業体験を開いた。一般参加者をはじめ、協議会、行政、JAの関係者約80名が参加し、新緑の茶葉を手で摘み取った。

1芯2葉の折り摘みで、一芽一芽の大きさを揃えることがポイント。参加者は「以前からやってみたかった。葉の緑色がきれい」「新芽がやわらかくて摘むのは簡単だけど長さを合わせるのが難しい」と話しながら作業を楽しんだ。

協議会の後藤元則会長は「体験を通じて豊橋のお茶を身近に感じてもらいたい」と期待している。

4.21
種無し巨峰
芽かき研究会

第六事業所巨峰部会は石巻本町のほ場で芽かき研究会を開いた。部会員、県、JA職員ら約50名が出席し、芽かきの方法や誘引作業について確認した。

守田作丞部会長は「生育が揃っており、作業しやすい環境にあるが、適期管理を徹底してほしい」とあいさつした。

東三河農林水産事務所農業改良普及課の鈴木寛之専門員は「一度に芽かきをするのではなく、樹に合わせこまめに作業をしよう」と話した。



4.22
~23
柿摘らい
講習会



柿部会は豊橋市北部地域の11会場で講習会を開いた。部会員約380名が参加し、樹を見ながら品種別の摘らい方法、病害虫防除などについて確認した。

白井伸治副部会長は「大玉生産をめざして管理作業を行ってほしい」とあいさつした。

今年はカメムシやフジコナカイガラムシの発生が多いと予想される。JA職員は「病害虫は発生初期の防除が重要。適期防除に心がけよう」と呼びかけた。

4.28
梨摘果講習会

梨部会は第六事業所で栽培講習会を開いた。部会員ら約50名が出席し、摘果のポイントについて確認した。

今川博道部会長は「品質の良い果実生産に心がけ、秀品率を高めていこう」とあいさつした。

講師の東三河農林水産事務所農業改良普及課の栗山幸子技師が「摘果作業は大玉生産の第一歩。早めに作業を行っていいこう」と呼びかけた。



4.28 安全・安心 対策本部会議

本店で農畜産物安全・安心対策本部会議が開かれた。部会組織の代表者約60名が出席し、生産履歴の記帳・提出の徹底に向けた目標や取り組み事項を確認した。農畜産物の安全性確保に対する産地への要求が高まっていることから、JAグループ愛知は、平成20年度末までに、すべてのJAにおいて販売するすべての農産物を生産履歴記帳の裏づけのあるものとする」という目標を定めた。

白井良始組合長は「生産履歴を記帳・提出することは当たり前。安全・安心な農畜産物の提供が急務であることを理解し、各組織で指導してほしい」と呼びかけた。



4.11 共済事業進発式



共済事業進発式が新栄町の高千穂会館で行われた。

LA担当職員、

JA愛知共済連の担当者ら約90名が参加し、平成20年度事業計画の達成に向けて気持ちをひとつにした。

白井良始組合長は「いざというときにはお客様から『JAのおかげだ』と感謝されることが多い。目標に向けて互いに連



携・刺激しあい、早期の計画達成をめざしてほしい」とあいさつした。決意表明では職員代表者が「訪問に力を入れ、お客様との信頼関係を深めていきたい」「商品知識やお客様との接し方などスキルアップをめざし、期待に応える職員になりたい」「明るく元気に前向きに取り組んでいきたい」と抱負を述べた。

春の感謝祭



日頃のご愛顧に感謝して各店舗で周年記念セールが開かれた。産直コーナーには産直部会員が出荷した旬の野菜・切花が並んだほか、店舗敷地内の特設テントでは園芸・日用品の販売が行われた。

セール期間中、どの店舗も新鮮な商品を求める買物客で賑わった。



産直プラザ二川



グリーンセンター磯辺・牟呂



植田アグリセンター